

# 市民社会をつくるボランティアフォーラム TOKYO2023 分科会テーマ（課題）の公募について

東京ボランティア・市民活動センター（TVAC）とボランティア・市民活動に関わる多様な団体が構成する実行委員会が企画・運営を担う「市民社会をつくるボランティアフォーラム TOKYO」（以下「ボランティアフォーラム」という）。所属や世代の異なる多様な人々が、ともに議論する中で作りあげられた分科会は、新たな社会課題の気づきや活動のヒント、出会いを提供しています。

この度、ボランティアフォーラムでは、分科会で取り上げたいテーマや課題を公募します。採択された応募者は実行委員として企画に参加いただきます。

近年、インターネットの普及で簡単に情報が得られるようになりましたが、関心のあるものだけを選択し閲覧する傾向が高まり、多様な市民が一堂に会して、立ちはだかる社会問題と向き合い、考え、議論し、何ができるかを考える機会が減っているのではないのでしょうか。今年度のボランティアフォーラムでは、こうした「考える力」（社会課題を捉えて、流れてくる情報を疑い、考え、調べ、体験してみる）が育まれるボランティアフォーラムにしたいと思っています。

今後の活動につながる、新たなボランティアフォーラムをともに作りあげる仲間となってくくださる方の参加をお待ちしております。

## ◆ボランティアフォーラムの目的

2023年2月、ボランティア活動や市民活動に関心のある方々、また、実際に取り組んでいる方々を対象に、「ボランティアフォーラム」を開催いたします。

この「ボランティアフォーラム」では、私たちの暮らしに関わる社会制度や仕組み、地域性、教育問題、価値観などの諸課題に焦点をあて、多くの市民、参加者がそれを共有し、一緒に考えるためのイベントとして、20～30の分科会を企画・実施しています。昨年度は、新型コロナウイルスの影響により、オンラインのみで分科会を開催し、のべ915人に参加いただきました。

ボランティア・市民活動に参加したことがない方々から、すでに活動を行っている方々まで、幅広く誰もが参加できる「ボランティアフォーラム」とし、共に“市民活動”“や”市民社会”を考えるきっかけにしていきたいと考えています。

## ◆企画数

5件程度採用（予定）

（選考基準）以下6つの項目を基準に選考します。

- ・現代社会におけるテーマであること
- ・広く一般を対象にしたテーマであること（参加対象を制限しないこと）
- ・多様な市民の参加が期待されるテーマであること
- ・本フォーラムで波及効果が期待されるテーマであること
- ・個人や所属団体だけでは実現が難しく、他団体との連携・協働が求められるようなテーマであること
- ・自団体で既に行っている、または行うことのできる企画ではないもの

※分科会内容の詳細（講師・スケジュールなど）については、テーマ案をもとに実行委員会で検討し共に決めていきます。

## ◆日時

2023年2月10日（金）～12日（日）内の1コマ

※1コマ＝2時間程度を予定しています。

## ◆開催方法

「オンライン開催」または、「会場開催」あるいは、「オンラインと会場の併用開催」

会場：飯田橋セントラルプラザ内会議室（会場は参加定員各 20 名を想定）

オンライン：Zoom

※案内図はこちら⇒<https://www.tvac.or.jp/tvac/access.html>

※分科会の企画内容によって、上記以外の会場や屋外などのフィールドワークの開催も可能です。

## ◆開催までの流れ（予定）

- ・第3回以降の実行委員会の開催日時は、第1回実行委員会の際に調整・決定します。
- ・実行委員会の内容は、昨年状況を掲載しているため、変更になる場合があります。

5月	6月	7月	8月
	1日：公募開始 15日：公募説明会 22日：公募締切	1日：公募結果通知 20日：第1回実行委員会 ・フォーラムについて説明 ・今気になること・社会課題について意見だし	9日：第2回実行委員会 ・分科会案について ・部会※について検討
9月	10月	11月	12月
第3回実行委員会 (土日祝の昼開催) ・分科会案について	第4回実行委員会 ・パンフレットについて ・分科会案について ・部会 (これ以降に講師依頼) 第5回実行委員会 ・全体テーマ決定	第6回実行委員会 (第4回実行委員会と同じ内容) 交流会：広報動画撮影 第7回実行委員会 (第4回実行委員会と同じ内容)	第8回実行委員会 ・当日の役割分担 ・部会 (個別に実行委員・講師と打ち合わせを行う)
1月	2月	3月	
第9回実行委員会 ・当日の役割分担最終確認 (個別に実行委員・講師と打ち合わせを行う)	フォーラム本番!! 10日・11日・12日	第10回実行委員会 ・振り返り ・報告書について	

※部会…分科会以外の運営について考える。昨年は、「広報」「全体会」「マーケティング」「交流会」の4つの部会に分かれて行った。

## ◆応募条件

- ・年間10回程度、平日夜間（19時～21時ただし第3回のみ土日祝の昼開催）に開催される本フォーラム実行委員会に、実行委員として出席し、応募したテーマ案をもとに、他の委員と一緒に議論検討し、分科会内容を作り上げられること（会議は会場開催を基本にしていますが、新型コロナウイルス感染症等の状況によりオンラインで開催する場合があります）。
- ・第1回実行委員会（7/20）、第2回実行委員会（8/9）に出席できること（ボランティアフォーラム全体像を共有する大切な会になりますので、必ず出席してください）。
- ・フォーラム当日の3日間（2023/2/10・11・12）出席し、他の分科会等準備や運営も含め協力すること。
- ・屋外で行う企画の場合は、参加者の安全が確保できるもの。

※企業の営業・宣伝活動、特定の政党・政治に関わる活動、宗教の普及に関わる企画は対象外。

## ◆予算

- ・予算は概ね30,000円以内（企画者・団体以外から招いた講師謝礼等を含む）
- ・一般的な機材（マイク、プロジェクター、PC等）や備品（模造紙、ペン、付箋紙等）は当センターでご用意することができます。

#### ◆応募用紙の作成

応募用紙に、応募者情報のほか、①テーマ案、②テーマ案の提案理由、③どのような人たちに参加してもらいたいのか、④ボランティアフォーラムでそのテーマの分科会を行うことによってどのような効果が期待できるか を A4 用紙 2 枚以内にまとめてご応募ください。

※用紙はこちら (<https://www.tvac.or.jp/download/XoQ6Gx9oXip4.docx>) から入手できます。

#### ◆応募説明会

6月15日(水) 19:00~20:00 Zoom 開催

※説明会の参加の有無は、選考には影響しません。

参加申し込みはQRコードあるいはこちらから([https://www.tvac.or.jp/vf\\_1.html](https://www.tvac.or.jp/vf_1.html))



#### ◆提出締切

6月22日(水) 17:00 必着 ※郵送またはメールにてお送りください。

#### ◆結果通知

7月1日(金) ※選考の結果は応募者にのみお知らせいたします。

#### ◆企画運営

市民社会をつくるボランティアフォーラム TOKYO2023 実行委員会

過去のフォーラムの様子は Web (<http://www.tvac.or.jp/vf/>)

facebook (<https://www.facebook.com/voluntaryforumtokyo>) からご覧いただけます。

#### ◆新型コロナウイルス感染症への対応について

ボランティアフォーラム開催にあたっては、参加者の安全性を確保しつつ開催できるよう、オンラインを併用するなど開催方法や対策を実行委員の皆さんのご意見もふまえて計画いたします。

実行委員会の開催についても、状況に応じて開催方法の検討や、安全対策を講じて進めてまいりますので、ご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

#### <連絡先・提出先>

東京ボランティア・市民活動センター (担当: 榎本・渡部・太田)

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸 1-1 セントラルプラザ 10 階

TEL: 03-3235-1171 / FAX: 03-3235-0050 / MAIL: [vf@tvac.or.jp](mailto:vf@tvac.or.jp)

#### <公募参加の実行委員よりメッセージ>

公募企画がきっかけで、実行委員として毎年参加しています。当初、応募した時の企画は高齢期になったときに、突然地域で何かしようと思っても、戸惑ってしまうのではないかと、ということが課題意識としてあり、子育て世代のうちから地域に少しずつ関係を築いていこうという内容の提案でした。

当初は自身で企画手法等も考えてはありましたが、当時の実行委員の方々から多面的なアドバイスをいただき、視野が狭かったことに気づかされました。また、実行委員も事務局もアドバイスだけではなく一緒に企画を練ってくれて、一人の考えではなかなか到達できない、多くの方の共感を得る企画となりました。

自分しか気づいていない問題意識や、他にない視点であるならば尚のこと、社会では忘れ去られていたり、誰も気づいていないことにつながります。この公募企画には、そのすそ野を広げるチャンスがあり、実行委員という名の仲間が見つかります。様々な経験や、活動領域の方と一緒に作ることは、多くの気づきを得られ一人で企画するよりも2歩も3歩も飛躍できることが学べました。このメッセージをご覧の皆さんも、ぜひチャレンジしてみてください。